

「高層気象観測」

【第21回】高層気象観測

「気象の杜」をご覧の皆様、新年のご挨拶を申し上げます。今年も皆様にとって、より良い一年となることを願っております。

ところで、2023年11月に開催された佐賀国際バルーンフェスタというイベントを皆様ご存じでしょうか。このイベントは、熱気球を使用したスカイスポーツのアジア最大級の国際競技大会です。たくさんのバルーンが空に浮かび、その光景は大変見応えがあります。

“バルーン”というと気象関係のお仕事をされている方はすぐに“ラジオゾンデ”を思い起こすのではないのでしょうか。ラジオゾンデとは、1935年以降、気球を使用して上空の気圧、気温、湿度、風向、風速等の気象要素を観測する気象観測測器のことです。このラジオゾンデをゴムで出来た気球に吊るして飛揚させることで、地上から高度約30kmまでの大気の状態を観測（高層気象観測）することができます。この高層気象観測は、世界各地で決まった時刻（日本標準時09時・21時）に行われており、気象庁では全国16か所の気象官署、南極の昭和基地、そのほか海洋気象観測船でも実施しています。ラジオゾンデによる高層気象観測で得られたデータは、天気予報の基礎である数値予報モデルや、気候変動・地球環境の監視、航空機の運航管理などに利用されています。気球が破裂し、気象観測を終えたラジオゾンデは、パラシュートによってゆっくり降下し、地上に落下します。気象庁ではラジオゾンデに「気象庁」の表示をしており、連絡先のラベルも貼ってありますので、もし、ラジオゾンデが落ちているのを見つけた時は、ラベルに書かれている電話番号又は最寄りの気象台に連絡して下さい。



佐賀市シティプロモーション室HPより



放球する地点の飛揚風景



ラジオゾンデ

出典元：気象庁HP（ラジオゾンデによる高層気象観測）